

2008年夏(6月～8月)の東北地方の天候

- ・ 7月上旬・中旬の高温、8月後半の低温（気温の変動が大きい）
- ・ 8月後半の大雨
- ・ 遅い梅雨入り・梅雨明け

(1) 2008年夏(6月～8月)の天候

6月は前線が日本列島の南岸に停滞することが多かったため、高気圧におおわれて晴れの日が多く、梅雨入りは平年よりかなり遅かった。梅雨入り後も7月上旬までは低気圧や前線の影響は小さく、降水量は少なかった。7月中旬以降は、上空の寒気や、低気圧や前線の影響により、曇りや雨の日が多くなり、梅雨明けも平年より遅かった。梅雨明け後は高気圧におおわれて晴れの日が続いたが、8月後半は前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、各地で大雨による災害も発生した。

7月上旬から中旬の高温や、8月後半の低温など、気温の変動が大きかった。

梅雨入りは、東北南部は6月22日ごろ、東北北部は6月23日ごろで、いずれも平年よりかなり遅かった。梅雨明けは、東北南部は8月6日ごろで平年よりかなり遅く、東北北部は8月5日で平年より遅かった。

3か月平均気温は東北地方で平年並。3か月間降水量は東北北部で多く、東北南部で平年並。3か月間日照時間は東北地方で少ない。

6月： 上旬から中旬にかけては梅雨前線の東北地方への影響は小さかった。一時的にオホーツク海高気圧や上空の寒気の影響を受け曇りや雨で低温となる日もあったが、中旬を中心に移動性高気圧におおわれ晴れの日が多かった。また、13日は上空に寒気を伴った低気圧の影響により、青森県で竜巻が発生した。下旬には梅雨前線が東北地方まで北上し、平年よりかなり遅い梅雨入りとなった。

月平均気温は東北地方で平年並。月降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。月間日照時間は東北地方で多い。

7月： 上旬は低気圧や前線の影響は小さく、降水量は少なかったが、中旬以降は上空の寒気の影響で大気の状態が不安定になり、局地的な大雨や雷雨となる日もあった。下旬は上空の寒気の影響に加えて、低気圧や前線の影響により、降水量は多く、日照時間は少なかった。また、上旬は北海道の東海上にある高気圧が南西に勢力をのびたため、中旬は太平洋高気圧が西日本への張り出しを強めたため、南からの暖かい空気が入りやすくなり気温は高くなった。

月平均気温は東北地方で高い。月降水量は東北地方で平年並。月間日照時間は東北地方で少ない。

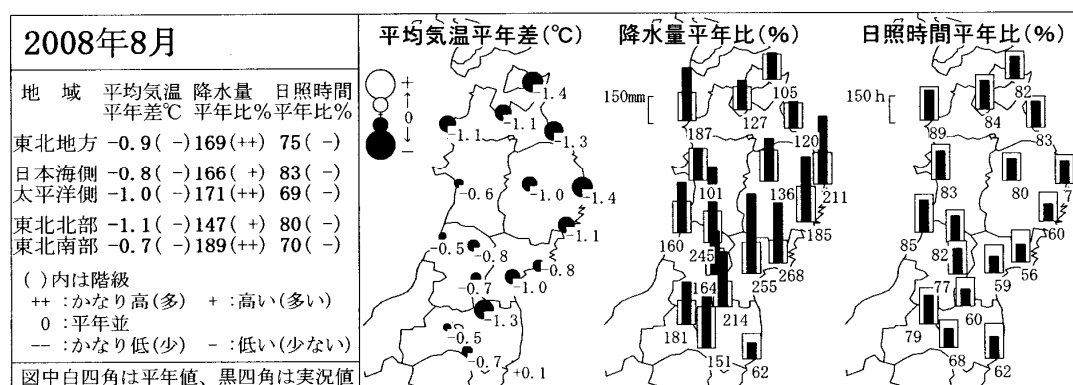
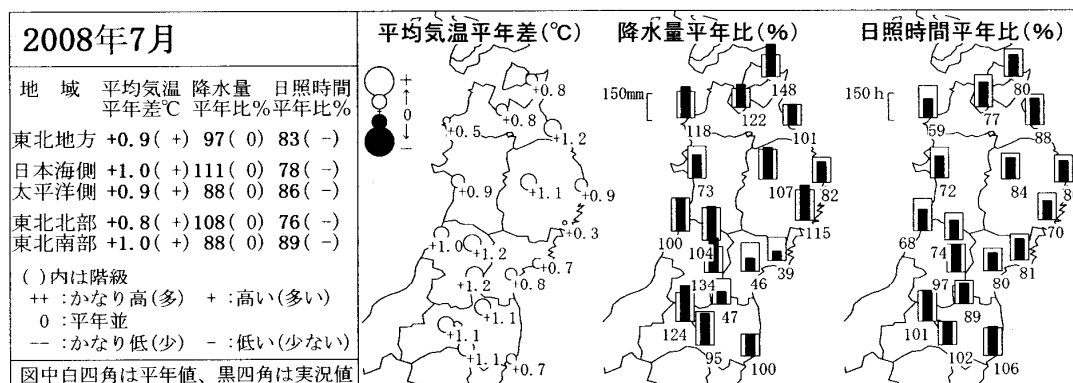
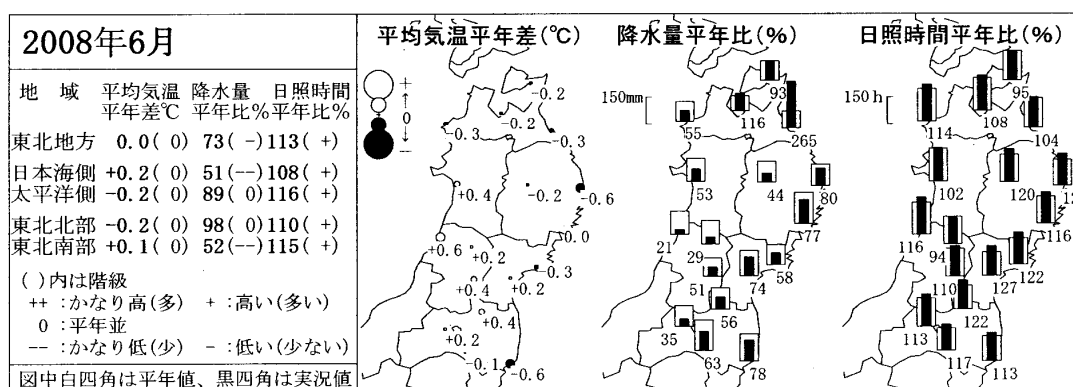
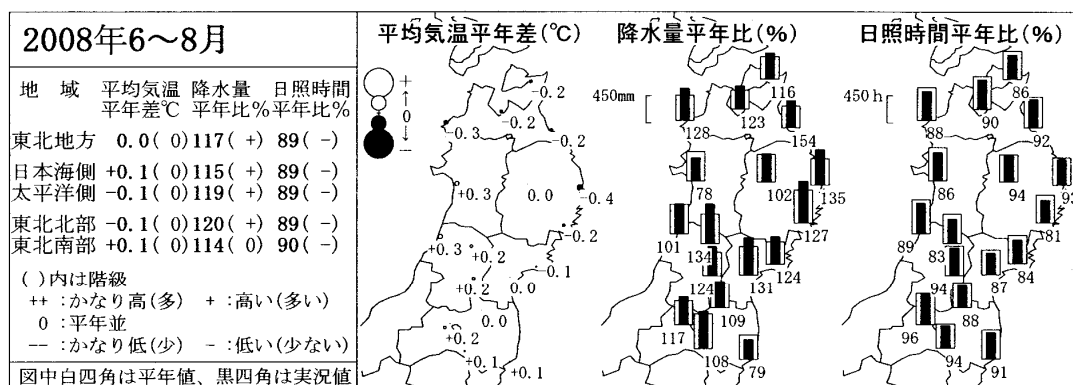
8月： 月の前半は高気圧におおわれて晴れて暑い日が多かったが、一時大気の状態が不安定となって局地的に大雨が発生した。月の後半は、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、また上層に寒気が入り大気の状態が不安定となって雷を伴う局地的な大雨がたびたび発生し、東北地方は各地で浸水害や土砂災害、停電や交通障害等が発生した。また、中旬後半から下旬前半には日本付近に寒気が南下し、顕著な低温となった。

月平均気温は東北地方で低い。月降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。月間日照時間は東北地方で少ない。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971～2000年です。階級区分については、3ページ目脚注を参照して下さい。

(2) 2008年夏(6月～8月)の季節・月平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971～2000年。

注) 東北日本海側：青森県津軽地方、秋田県、山形県、福島県会津地方
 東北太平洋側：青森県下北・三八上北地方、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り地方
 東北北部：青森県、秋田県、岩手県
 東北南部：宮城県、山形県、福島県

(3) 2008 年夏 (6 月～8 月) の気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		
	(℃)	(℃)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	20.2	(-0.2)	○	385.0	(123)	+	29	492.5	(90)	—
深 浦	20.2	(-0.3)	—	527.0	(128)	+	32	476.5	(88)	—
む つ	18.7	(-0.2)	○	431.0	(116)	+	32	401.7	(86)	—
八 戸	19.4	(-0.2)	○	549.0	(154)	+*	40	468.3	(92)	○
秋 田	22.3	(+0.3)	+	382.5	(78)	—	31	471.0	(86)	—
盛 岡	21.0	(0.0)	○	469.0	(102)	○	34	428.3	(94)	○
大 船 渡	20.2	(-0.2)	○	694.5	(127)	+	37	373.6	(81)	—
宮 古	19.0	(-0.4)	○	590.0	(135)	+	34	424.3	(93)	○
仙 台	21.5	(0.0)	○	619.0	(131)	+	32	357.0	(87)	—
石 巻	20.7	(-0.1)	○	456.5	(124)	+	30	398.0	(84)	—
山 形	22.7	(+0.2)	○	490.0	(124)	+	33	462.8	(94)	—
新 庄	21.8	(+0.2)	○	658.5	(134)	+	35	401.5	(83)	—
酒 田	22.8	(+0.3)	+	496.0	(101)	○	33	506.1	(89)	—
福 島	22.9	(0.0)	○	444.5	(109)	○	32	373.0	(88)	—
若 松	22.9	(+0.2)	○	475.5	(117)	+	34	506.6	(96)	—
白 河	21.3	(+0.1)	○	627.5	(108)	○	46	378.9	(94)	—
小 名 浜	21.4	(+0.1)	○	326.0	(79)	—	27	440.0	(91)	—

(注) 1. 平年値は 1971～2000 年の資料から求めた。

2. 「階級」の欄の符号は、以下のことを示す。

+:高い(多い)

○:平 年 並

—:低い(少ない)

各階級の区分値は、1971～2000 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、階級が「高い(多い)」「低い(少ない)」となった地点のうち、1971～2000 年間の中で、高い(多い)方または低い(少ない)方から 10%に入る極端な値である場合には、階級の「+-」に*を付加した。この場合には

かなり高い(多い)

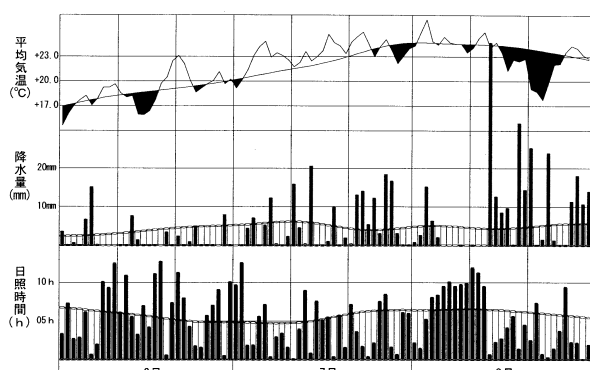
かなり低い(少ない)

と表現できる。

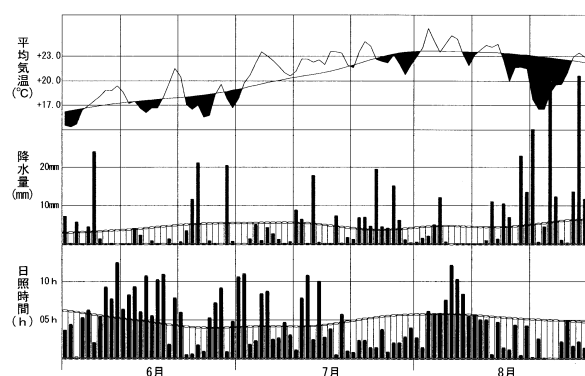
3. 値の横に) や] がある場合には、3 か月別値を求める際に使用したデータ(月別値)に欠測等が含まれていることを示す。) 付きの値(準正常値)は通常のもと同様に扱うことができるが] 付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計月数(統計に用いた、品質が十分な月別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。

なお、月別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

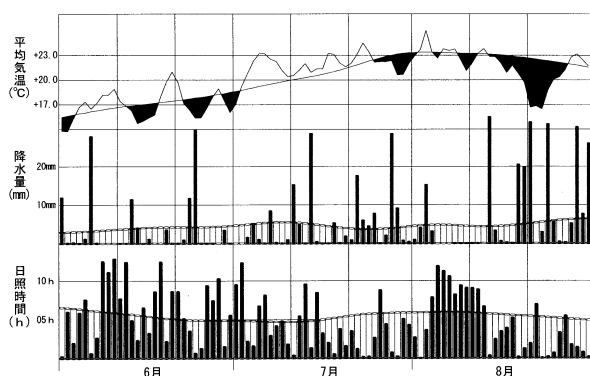
(4) 2008 年夏 (6 月～8 月) の日別経過図



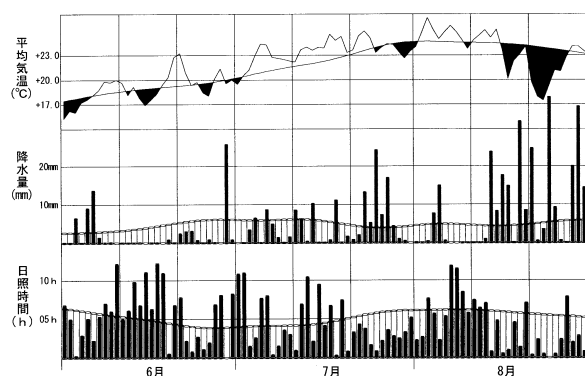
東北日本海側



東北太平洋側



東北北部



東北南部

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均 (気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱)

(5) 2008 年夏 (6 月～8 月) の極値・順位更新

(3 か月平均気温、3 か月間降水量、3 か月間日照時間の 3 位以内のみ)

なし

(注) 順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

(6) 月統計値の極値更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の1位のみ。)

月降水量多い方からの順位更新

月	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
6月	八戸	263.0	265	236.7 (1954)	1937	99.2

月降水量少ない方からの順位更新

月	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
6月	若松	40.5	35	50.0 (1987)	1954	115.7
	酒田	27.0	21	37.4 (1957)	1937	128.1

(注) 順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

(7) 2008年夏(6月～8月)の3か月間猛暑日日数、3か月間真夏日日数、3か月間日最低気温25℃以上日数の極値・順位更新

夏の猛暑日(日最高気温35℃以上の日)多い方からの順位更新

なし

夏の真夏日(日最高気温30℃以上の日)多い方からの順位更新

なし

夏の日最低気温25℃以上の日 多い方からの順位更新

なし

(注) 順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

(8) 真夏日・猛暑日・日最低気温 25℃以上の日数と今夏の最高気温

	日最高気温30℃以上								日最高気温	日最低気温	今夏（6～8月） の最高気温			
	6 月		7 月		8 月		夏		35℃以上	25℃以上				
	08年	平年	08年	平年	08年	平年	08年	平年	08夏	平年	08夏	平年	(℃)	(起日)
青森	0	0.4	1	3.9	3	7.6	4	11.9	0	0.2	0	0.2	32.0	8 月 3 日
深浦	0	0.0	1	1.4	0	3.9	1	5.2	0	0.2	0	0.3	30.1	7 月 6 日
むつ	0	0.1	0	2.1	0	4.0	0	6.2	0	0.0	0	0.0	29.6	8 月 6 日
八戸	0	0.6	5	5.2	2	7.4	7	13.2	0	0.4	0	0.3	34.3	8 月 3 日
秋田	1	0.2	5	4.9	9	9.7	15	14.8	0	1.1	0	2.1	32.6	8 月 28 日
盛岡	1	0.8	4	6.5	7	10.1	12	17.4	0	0.4	0	0.1	33.9	8 月 6 日
大船渡	0	0.4	0	3.4	0	5.7	0	9.6	0	0.3	0	0.2	29.5	7 月 5 日
宮古	1	0.6	3	4.4	3	6.8	7	11.7	0	0.5	0	0.1	33.0	8 月 3 日
仙台	0	0.4	4	5.1	6	9.9	10	15.4	0	0.4	0	0.8	33.6	8 月 7 日
石巻	0	0.1	1	2.3	3	4.8	4	7.2	0	0.0	0	0.3	33.5	8 月 7 日
山形	4	2.4	17	11.7	15	17.5	36	31.6	2	3.6	0	0.2	35.9	8 月 3 日
新庄	2	1.1	9	7.9	13	13.0	24	22.0	0	0.8	0	0.2	34.5	8 月 3 日
酒田	1	0.5	5	6.5	8	12.6	14	19.6	0	1.3	0	1.9	33.4	8 月 3 日
福島	5	3.4	14	13.3	12	18.1	31	34.9	3	5.5	1	2.4	37.2	8 月 7 日
若松	4	2.2	15	12.1	16	18.4	35	32.7	0	2.6	0	0.2	34.1	8 月 3 日
白河	0	0.6	9	6.8	8	10.7	17	18.2	0	0.1	0	0.0	33.2	8 月 7 日
小名浜	0	0.3	0	1.9	6	3.8	6	6.0	0	0.1	0	0.5	33.4	8 月 15 日

今夏 (6～8 月) の最高気温の「*」は日最高気温の 1 位の値を更新。

(9) 2008 年夏 (6～8 月) に日本 (本土) に接近した台風

今年の台風は、4 月 15 日に台風第 1 号が発生して以来、8 月 31 日現在 12 個発生している。夏 (6～8 月) の台風発生数は平年 (11.2 個) より少ない 7 個、本土接近数は平年 (3.1 個) より少ない 1 個であり、上陸した台風はなかった。

また、東北地方に大きな災害をもたらすような台風もなかった。



2008 年夏に接近した台風の経路図

今年と平年の月別の台風発生数、上陸数、本土接近数 (2008 年 8 月 31 日現在)

		1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	年間
発生数	今年				1	4	1	2	4					
	平年	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
上陸数	今年													
	平年						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
接近数	今年								1					
	平年					0.0	0.3	1.2	1.6	1.6	0.7	0.0		5.2

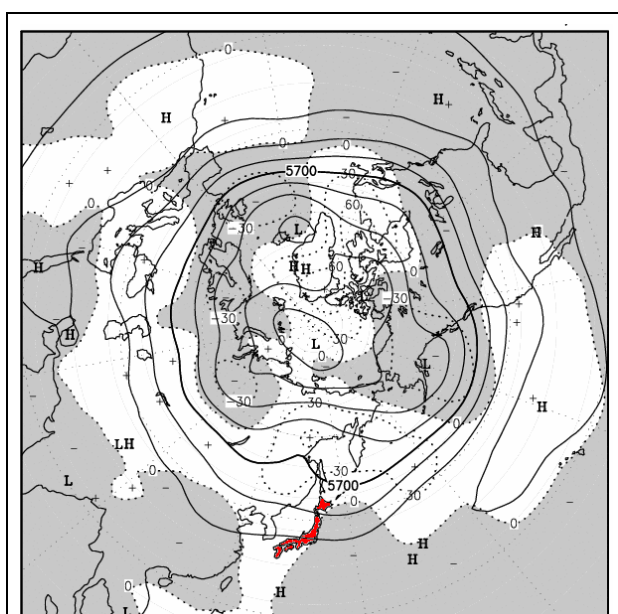
(1 0) 東北地方の梅雨入り・梅雨明けと梅雨の時期の降水量

地 域	梅 雨 入 り		梅 雨 明 け		梅雨の時期の降水量(mm) (かっこ内は平年値(mm) : 注2参照)と平年比
	今 年	平 年	今 年	平 年	
東北南部	6 月 22 日 ごろ	6 月 10 日 ごろ	8 月 6 日 ごろ	7 月 23 日 ごろ	仙台 131.5 (243.8) 54% 山形 220.0 (212.2) 104% 福島 132.0 (222.5) 59%
東北北部	6 月 23 日 ごろ	6 月 12 日 ごろ	8 月 5 日 ごろ	7 月 27 日 ごろ	青森 177.0 (141.6) 125% 盛岡 214.5 (224.5) 96% 秋田 158.5 (244.1) 65%

注1) 梅雨は季節現象であり、その入り・明けは平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。このため、時期の表現は「移り変わり」の期間の概ね中日をもって「**日ごろ」としています。

注2) かっこ内は比較のための降水量で、同時期（東北南部は6月22日～8月5日、東北北部は6月23日～8月4日）の日別平年値の合計値を示しています。

(1 1) 北半球の大気の流れ (6 月～8 月)



6 月～8 月の平均 500hPa 高度・平年偏差図

実線は高度 (m)、間隔 60m。破線は偏差 (m)、間隔 30m。陰影部は負偏差域。

6 月～8 月の平均 500hPa 高度を見ると、中緯度域は、中央アジアから太平洋東部にかけて広く正偏差、低緯度域は負偏差となっている。

極東域では、東シベリアからアリューシャン列島で強い正偏差、その南側の日本の東海上を中心に負偏差となっていて、北日本を中心に寒気が南下することが多かったことに対応している。

西日本を中心に正偏差となり、東日本、西日本、沖縄・奄美で高温となったことに対応しているが、東北地方は明瞭な偏差はなく、6 月～8 月を平均した気温は平年並だった。